

## 平成 24 年 6 月の実習報告

### 【 6 】

期間：平成 24 年 6 月 8 日～13 日（4 日間） 西荻図書館

学校：荻窪中学校 2 年生 1 名

内容：返却本戻し、書架整理、新刊受入、お話し会、  
壁面飾りの制作（素敵なものを作ってくれました）

感想：

利用者の方が喜んでくれるように、図書館を利用しやすくなるように、たくさんの方の工夫をしてくださっていること……この仕事は大変だということを知りました。

特に、書架戻しは大変でした。返却本は、1 日に何冊もあります。この本全部を、館内を歩きまわってあいうえお順にそろえるのです。これを、何回も何回も繰り返すのです。全部返し終わって「ふうー」と一息ついたところで、次の返却本がきます。とても大変でした。

でも仕事はそれだけではありません。私が体験した仕事を数えてみると、全部で 8 つほどありました。まだほかにも仕事があります。

図書館の仕事は、本の貸し出し、返却だけだと思っていました。でも、これらたくさんの方がいるから、図書館が成り立つのだと思いました。

私は今回、働くとはどんなことか？ということを知ることができました。働くとは、「人の役に立つこと」。そして、そのことに喜びを感じる。喜んでもらえるよう、工夫すること。

利用者の方々が本を手にとっているのを見ると、とてもうれしくなりました。本の書架戻しはとても大変ですが、だんだんと戻すスピードが速くなっていくと、うれしかったです。とてもやりがいのある仕事だと思いました。

4 日間ありがとうございました！ とても楽しかったです。

こんどから本を本だに返すときは、ちゃんと分類ラベルを見て、きれいに戻したいと思います。

おすすめの本：

**「大盛りワックス虫ボトル」魚住直子 / 著 講談社**

六年間、同じ小学校だったやつには、中学校で「どこの小学校出身？」と聞かれ、両親と買い物に行けば、駐車場で置き去りにされる……。そんな存在感の薄い公平のところに現れたのは、豆糸男。ペットボトルの中でぷかぷかと浮いているそいつは、小粒納豆くらいの大きさで、白い豆の下に糸状のものがぶら下がっている……。まるで棒人間！これは幻覚か？ つまり頭がおかしくなったということか？ なやむ公平に、豆糸男はこう言った。「ひとを 1000 回、笑わせるよーん。おまえの誕生日までにだよーん。」誕生日まであと 4 カ月！ひとを 1000 回笑わせることができるのか？そして、この豆糸男の正体とは！??

誰にだって悩みはあります。自分のキライなところだってあります。でも、必ず自分のいいところがあるはず。弱点ばかりじゃない！きつといいところがある！公平は、この豆糸男のおかげで、それに気付けたのだと思います。私もこの本で、そんなことに気付かされました。おもしろいので、ぜひ読んでみてください！！

**「ぼくらの七日間戦争」宗田理 / 作 ポプラ社**

おとなたちをやっつけろ！河川敷の廃工場にたてこもり、ここを子どもだけの解放区にした英治たちのモットーは、まさにこれ。うるさい親や学校の先生もいない、まさに夢の世界！とある中学校の1年2組男子生徒全員がいどむのは、大人。解放区で、おとなたちへの叛乱（はんらん）を巻き起こす。そんな中で、解放区メンバーの一人が誘拐されたり……。警察、テレビまでも巻き込んだ、七日間に及ぶ大人たちとの大戦争！あらゆる手段を使い、大人たちを困らせる英治たち。大人たちに勝つことはできるのか！？大人は好きにしてんのに、どうして子どもは大人にしばられていなきゃいけないんだ！そう思ったことはありませんか？そんな人にオススメの本です。

**【7】**

期間：平成 24 年 6 月 27 日～7 月 3 日（5 日間） 西荻図書館

学校：高井戸中学校 2 年生 1 名

内容：返却本戻し、書架整理、新刊の受入、赤ちゃんお話会の手伝い、七夕の飾りつけの手伝いなど

感想：

細かい作業が多く、体力を使う大変な仕事だということがわかり、貴重な体験をした（……と、西荻図書館に感想を寄せてくれました。）

おすすめの本：

「三匹のおっさん」有川浩 / 著 文藝春秋

このお話は定年をむかえた三人のおっさんの話です。

この本の登場人物は「三匹のおっさん」こと、キヨ、シゲ、ノリ。

この本のストーリーは「三匹のおっさん」たちが、自分たちの住む町で起こる事件を孫などの力を借りて解決していくというものです。そして反抗期だった孫と事件を解決していくと…。

そこに高校生の恋愛をさりげなく入れた、とてもおもしろい一冊です。

【 8 】

期間：平成 24 年 6 月 27 日～7 月 3 日（4 日間）高井戸図書館

学校：高井戸中学校 2 年生 2 名

内容：返却本戻し、本の修理、予約本探し、新刊の受入、雑誌の装備・受入、ブッカーかけなど

感想：

メール便の処理をするのが楽しかった。予約の本がいっぱいあって探すのが大変だった。特に 2 階（児童書）の方が大変でした。全体的に図書館の仕事は思っていたよりも難しく、とても大変でした。今回の体験で私たちがいつも気軽に図書館を利用できるのは図書館の人たちが苦勞しているからだと思いました。今回、職場体験を受け入れてくださってありがとうございました。

質問！「杉並区の図書館について、どう思いますか？」

各館ごとに本の特集をやって、工夫していていいと思った。

おすすめの本

「デモナータ」Darren Shan / 作 橋本恵 / 訳 小学館

とてもリアルですごくこわいけどおもしろいです。悪魔なんていないと分かっているけど最後まで読むと信じてしまうほど、リアル感が抜群です。最後まで予想がつかなくてハラハラ、ドキドキです。つい止まらなくなり、気がついたら最後まで読んでしまいます。